校報

はちもり

校訓：海のように 波のように 岩のように

八峰町立八森小学校
目指す子ども像
①よさを伸ばし合う子ども
②つながりを大切にする子ども
③自らとふるさとを拓く子ども

令和４年９月１４日(水)　第１０号　文責：八代　英樹

親子でジオサイト

９月11日に、「親子でジオサイト」を実施しました。
保護者の皆様にも多数参加していただきました。
ありがとうございました。

好天の下、全校児童が「海岸線コース」「留山コース」「三十釜コース」の３コースに分かれ、保護者と一緒にジオサイト見学をしました。各コースにガイドの方々がつき、それぞれの場所の成り立ちや伝説などを聞きながら見学しました。地域を見直そうと、昨年始めた行事です。今年も新たな発見があったことだと思います。

海岸線コース

鹿の浦展望台から海岸線の様子を見学した後、柱状節理の上を歩きました。
最後は「白瀑」をバックに記念写真を撮りました。

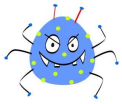
留山コース

ガイドさんが、留山の植物や動物を丁寧に教えてくれました。
ブナの巨木をバックに、班のみんなで写真を撮りました。

三十釜コース

岩の穴で薪を台無しにしたことが名前の由来とか。釜は薪の量を表す単位だったようです。「森林科学館」の展示からわかることもたくさんありました。

新型コロナ感染症に関する規準・対応について



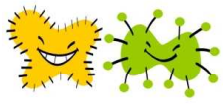
新型コロナ感染症が令和２年に日本で確認されてから、これまで様々な対策がとられてきました。
ウイルスが出始めた当初は、新型で不明なことの多い感染症であり、有名芸能人の死亡など、ショッキングなニュースもありました。そのため、「不安な場合は、休むしかない」と考える時期もありました。学校では、２月下旬に内閣総理大臣から全国一斉休校の要請があり、３月には長期休校となりました。
その後、国・県・町ではガイドラインを作成し、学校ではガイドラインに沿って感染拡大防止に努めてきました。
月日は過ぎ、新型コロナ感染症発生から今日まで、２年半以上が経過しました。この間に、コロナは変異を繰り返し、感染拡大や減少を繰り返してきています。
また、ワクチン接種が行われたり、感染対策の研究が行われたりと、対策も進んできています。
それに伴い、学校や家庭でとるべきガイドラインも変わってきています。
つきましては、最新のガイドライン等をご理解の上、適切な対応にご協力いただきますようお願いいたします。

	現　行　（最新）	旧　（現在は×）
本人が陽性	７日間の隔離療養･治療（条件付） 無症状の場合、５日目に検査で陰性であれば５日間の隔離	症状や検査結果を見て、医師または保健所が隔離期間を判断（日数の規定なし） ⇒10日間の隔離療養・治療
濃厚接触者として特定された場合	原則５日間の出席停止 ２日目及び３日目に抗原検査で陰性が確認できれば、３日目から登校できる	自宅待機（出席停止）２週間
学校内の濃厚接触者の判断	「マスクなしで長時間（20分程度）会話する」などの、ガイドラインに沿って学校で判断する	保健所が濃厚接触者を判断する
学級閉鎖・休校等	保健所または学校医、及び町教委と相談の上、学校で判断する 「複数の感染者が出ても、学級内での感染でなければ閉鎖の必要はない」（ガイドラインの以前と違う内容を一部抜粋して紹介）	感染者が出た場合、地域一斉休校、町内一斉休校を検討する ⇒学校ごと保健所に休校等の判断を仰ぐ ⇒クラスで感染者および濃厚接触者が複数出たら学級閉鎖
県外移動	移動制限なし	東京など一部の都道府県への移動自粛 ⇒全ての都道府県への移動自粛 帰県時、ＰＣＲ検査の義務付け または、１週間～２週間の自宅待機 ⇒自宅待機３～５日程度に減（県、町）

※詳細なガイドラインは､文部科学省のホームページから見ることができます。

＜よくある例＞

・児童の家族が濃厚接触者になった場合は、家族がＰＣＲ検査または抗原検査で、陰性が確認されるまで登校できません。登校できない間は出席停止です。

・児童の家族の職場や学校で陽性者が出ても、家族が濃厚接触者に特定されなければ、児童は登校することができます。不安であれば、家族が自主的な抗原検査等で陰性を確認した上で児童を登校させるのも一つの方法です。欠席をなくす（減らす）ことができるよう、ご家庭でのご配慮をお願いします。

※なお、感染拡大対策の一つとして、登校後、発熱や咳などの風邪症状が出た児童は、帰宅してもらっています。児童のお迎えと病院での診察等、ご協力お願いします。